

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（柔道・合気道）の実践

和歌山県田辺市立龍神中学校
校長 新行 靖

和歌山県田辺市は、平成17年5月1日、田辺市、中辺路町、
本宮町、大塔村、龍神村が合併し、「新田辺市」としてスタートした。

本校は、旧龍神村全域を校区とし、平成19年4月1日、三つの中学校が統合してできた学校で、開校から14年目を迎えている。開校当初は、生徒数が112名であったが、徐々に減少し、令和2年度は73名である。合気道の授業は、令和元年度より始めたばかりである。



1 はじめに

本校は、平成30年度まで、1、2年生は武道の授業で柔道を学んできたが、令和元年度は、1年生（29名）が合気道、2年生（20名）が柔道に取り組んだ。今年度は、1年生（24名）、2年生（29名）が合気道の授業を実施した。さらに、田辺市教育委員会より、「武道推進モデル校」（合気道・柔道の複数種目実施）の指定を受けたことにより、2年生は合気道に加えて柔道の授業を実施した。

外部講師として、合気道は、植芝盛平翁顕彰会常任理事であり、合気道田辺道場の道場長代行の五味田潤一氏と道場生の古川勇喜氏が招請した。

柔道は、県教育委員会スポーツ課長、県立箕島高等学校長を務める、現在、和歌山県柔道連盟会長の藤村利行氏と県立熊野高等学校教諭の古川一氏に指導していただいていた。

田辺市内には中学校が14校あり、令和2年度は6校が合気道の授業を実施している。また、令和3年度からは、新たに2校が合気道の授業の実施を予定しており、過半数の中学校が合気道に取り組むことになる。

また、本年度、田辺市立武道館が新たな場所に新築され、その中に、植芝盛平記念館が開設された。記念館は、合気道の開祖、植芝盛平翁の偉大な足跡と功績をたたえ、永く後世に伝承していく役割を担っている。



植芝盛平記念館

2 合気道・柔道の指導計画

▼1学年での学習

令和元年度、1年生には計8時間、合気道の授業を実施した。

1時間目はオリエンテーションとして、人物学習「植芝盛平翁を学ぶ」に取り組んだ。講師に植芝盛平翁顕彰会の太田雄司氏を招き、植芝盛平の生涯と合気道の誕生について学んだ。

▼2学年での学習

令和2年度、2年生には全10時間の授業を実施し、合気道と柔道に取り組んだ。

1時間目は、前年度学習した合気道の礼法、基本動作、受身の復習をした。

2時間目から7時間目までは、合気道の学習で、1年次の復習として「交差取り小手返し」、新しい対人的技能の「片手取り四方投げ（表）」「片手取り一教（表）」



合気道は男女共習で行われた



合気道・外部講師による模範



合気道・一斉に指導



柔道・受身の学習①



柔道・受身の学習②

②教科担任の感想と生徒たちへの言葉
五味田先生（五段）と古川先生（三段）から丁寧に教えていただきながら技をやっていくと、体格の差や男女に関係なく、相手の力を利用しながら重心を崩し、技をかけることができました。先生方をお願いして、自信がついてきた生徒たちに技をかけてもらいました。

男子の中には、技がかからないように力を入れて踏ん張ろうとした生徒もいましたが、先生方の小手（手首）を掴み（つか）にかかると、一瞬で技をかけられ倒されてしまいました。先生方が長年修練されてきた実力を体感することができました。合気道の授業を受け、技の魅力や難しさを体感したからこそ、先生方の技の素晴らしさに生徒の感動も大きかったと思います。

③合気道指導者から生徒へのアドバイス
生徒たちは体格の差や男女関係なく組み、相手を気遣いながら技を丁寧にかけるなど、仲間と共に上達しようとする姿が見えました。ぜひ、今回学んだことを日常生活につなげてみてください。

は、投げることを目的にすれば、投げることに負担がかかってくるということである。投げるためには、投げる一歩手前の崩しが必要になる。相手を崩しても、自分の体制が崩れてしまうと上手くいかないのです、自分のバランスが大切であり、相手のバランスの崩しが必要になる。合気道でも柔道でも大切なことである。

1年生指導計画（合気道）

	1	2	3	4	5	6	7	8
種目	オリエンテーション・武道	合気道						学習のまとめ・武道
学習の流れ		導入（あいさつ、健康観察、本時の目標、本時の学習の見通し）						
		準備運動						
		基本動作・受身の学習					学習のまとめ	
		前時の復習 (対人的技能の習得)						
		対人的技能の習得 (新しい技の習得)						
振り返り								



柔道・対人での学習

を学んだ。
8時間目と9時間目は柔道の学習で、準備運動として前転、後転、

側転などの「器械運動」「受身」、対人の学習として「座位からの受身」「立位からの受身」を学んだ。

3

授業の様子、生徒の感想

①合気道授業に対する生徒の感想

▼「合気道を通して」（2年生女子）

私は昨年度に引き続き合気道の授業を受けて、技がレベルアップしたことが嬉しかった。去年は、送り足、転回足、転換足をするのに苦労したけど、今年は去年のことを思い出しながらできたので、あまり苦労せずにできた。

新しい技を学習したけれど、それほど難しいとは思わなかった。それは、先生方が私たちのペースに合わせて、一つ一つの動きをゆつくり丁寧に教えてくれたからだと思う。実際に手本を見せてくれたので、動きがとても分かりやすかった。

先生方の模範演武は、動きが速くて迫力があつた。時間を重ねるにつれて、できる技の数が増えていき、合気道の楽しさを感じるこ

とができた。

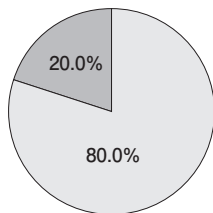
技を通してやると、ペアの相手との息が合わずに上手くできないこともあつた。相手と息を合わせるのは難しいけれど、とても大切なことなのだと感じた。

私はもう一つ大切なことに気づいた。それは、礼儀と感謝だ。体育館に入る前、出る時は一礼、先生方にも挨拶と礼をする。そんな当たり前のことを必ずするということが気づいた。また、技をかける相手がいるということにも感謝しなければならぬということも教えていただいた。

合気道を通して、武道やその他のスポーツも、勝負だけが全てではないと学んだ。これからはもっと、全てのことへの礼儀や感謝の気持ちを大切にしていきたい。

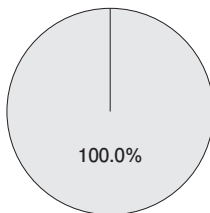
授業後のアンケート結果

① 2 種目の武道を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。



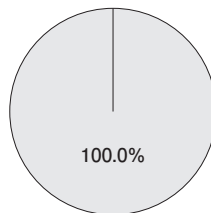
□ 高まった □ やや高まった
■ あまり高まらなかった ■ 高まらなかった

② 2 種目の武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。



□ 深まった □ やや深まった
■ あまり深まらなかった ■ 深まらなかった

③ これからも多くの武道種目を学習したいと思いますか。



□ 思う □ やや思う
■ あまり思わない ■ 思わない

④ 柔道の授業後の生徒の感想

▼「受身」の練習を始めるとき、

講師の先生が、「受身を学ぶことは、負け方を学ぶこと」と話された。自分がしつかり受身ができるようになることは、相手に投げられたとき、怪我をしないことにつながり、それは、相手への思いやりにつながるのだと感じた。

▼講師の先生は、柔道と合気道の通ずるところを具体的に話された。また、合気道への尊敬の言葉も話されていたことが印象に残った。

▼講師の先生方の投げ技が、とても速い動きで迫力があつた。柔道の魅力を強く感じた。

⑤ 授業後の生徒アンケートから

2 種目（合気道・柔道）の授業終了後、2 年生に武道への関心の高まり、伝統的な考え方や行動の仕方への理解、武道種目を学習することへの意欲を問うアンケートをとった。生徒の評価はどれも高かった。

4 終わりに

〈授業者から〉

私自身、高校から少林寺拳法をはじめ、創始者（宗道臣）の教えに惹かれた。宗道臣は、1945 年に中国大陸の旧東満州でソ連軍の攻撃に遭遇し、そうした苦境の中で「すべては人の質にある」と悟り、帰国後に祖国復興に役立つ人間を育成しようと決心し、少林寺拳法を創始した。合気道の創始者（植芝盛平）も、「合気道は」

で、技の上達だけでなく、「左座右起」の作法をはじめ、座った時の姿勢や座礼などの身の振る舞い方からも、武道の美しさが生徒たちに浸透していったように感じる。

相手と相和して切磋琢磨をはかり、自己の人格完成を目指す武道だ」と述べており、そうした教えの通り、授業を通して、生徒たちが仲間と共に上達しようとする姿が見られた。また、相手の重心を崩したり、相手の力を利用して技を成功させたりと、よく考えて修練していた。

合気道と柔道の授業を通じて、武道を指導する先生方と出会うこともでき、生徒だけでなく、私自身、武道の魅力にあらためて気づかされた。

6 時間の合気道の授業を通し

（保健体育科教諭 阪本実花）